

豊川小だより

11月号

ホームページ
QRコード



令和7年10月31日
北区立豊川小学校
校長 中村 順子

いよいよ150周年記念式典です

校長 中村 順子

1875（明治8）年。明治維新からまだ間もない日本の黎明期に、この豊島の地に産声を上げたのが、豊川小学校の前身である「第一大学区 第四中学校区 第二公立小学 豊川学校」です。豊島7丁目にある紀州神社の境内にあった観音堂に、児童数わずか40人の小さな学校として誕生した「豊川学校」。その後、関東大震災や東京城北大空襲などの災害に幾度も見舞われながらも、明治、大正、昭和、平成、そして令和と、150年もの長きにわたって地域とともに歩み続けてきました。関東大震災で校舎のほとんどが倒壊した際は、豊島の渡船の渡し賃を寄付していただき、校舎の再建が行われたといえます。また、空襲の際には、学校の大切な書類や二宮金次郎像などは、近隣の方々が手分けして持ち帰り、防空壕や自宅の井戸などに入れて守ってくださったそうです。豊川小学校が150年間の歴史を絶やすことなく今日まで続いているのは、まさに地域の方々の尽力があつてのことなのです。

＊

10月2日の「バルーンリリースイベント」、子供たち一人一人の手から放たれた風船が真っ青な空に飛び立つさまは、まさに壮観でした。10月23日の「150周年記念集会」は、代表委員会と集会委員会の児童が中心になり、全校児童で作り上げたバースデーケーキのカットイベントや、周年記念事業協賛会会長の村岡様へのインタビュー、豊川小の歴史クイズなどが行われました。



どちらの行事も、子供たちのはじけるような笑顔が満開となる、心に残る素晴らしい時間になりました。

＊

そして11月を迎え、いよいよ11月15日の創立150周年記念式典に向けた準備が佳境を迎えています。記念式典には全校児童が一堂に会し、子供たちの言葉や合唱を通して、創立150周年を迎える喜びをご来賓の皆様にお届けしようと計画しています。校舎のあちこちに、150周年記念キャラクター「さくらす」が飾られ、子供たちの気持ちも高まってきました。当日ご列席の皆様はもちろん、それぞれの場所から思いを寄せてくださる方々にも、この喜びが届くよう、児童と教職員が一体となって取り組んでまいります。



＊

創立150周年記念事業を行うにあたりましては、保護者の皆様、豊島地区の皆様、また当日式典会場を提供して下さる明桜中学校の菊池校長先生をはじめとする学校関係者の皆様に、多くのご協力をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

創立150周年記念事業が、子供たちが自分たちの住む街を愛し、これからも地域とともに成長しようとする気持ちを抱く契機となることを、心から願っています。